



ボランティア派遣事業特集

パンガシナン州コロバン学園の学校建設活動(2016-2-11~28)から帰国後、2週間ボランティアが、現地で滞在して体験して、気づいてほしい、そんな願いを込めて、次の5項目について、各自で考えたことを発表し、また仲間の意見も聞く機会でした。この場でお伝えします。



※ 帰国反省会の様子

1. ホームステイ先の家族の一員として、生活した時、「家族の在り方」をどのように感じましたか。

★日本で家族というと、自分と親と兄弟だけを指すことが多いけれど、フィリピンはもっと広い範囲を家族として捉えていると思った。親戚同士で交流があって、孤独死なんて起こらなさそうな印象。家族はすごく温かいという印象を受けた。★両親を尊敬する気持ちが強い。血が繋がってなくても、本当の子どもじゃなくても家族。★年上の子の責任感が強い。★男女平等。男の人も家事を手伝うし、女性の立場が上。★家族が一番大切。★近所や兄弟同士でも困っていれば必ず助け合える。★自己中心的でない。常に他人のことを考えて行動できる。挨拶を欠かさない。★家族の愛情というそれ以上のものをフィリピンで学んだと思うのです。日本では家族だけど孤立していた。ご飯が別、朝会っても挨拶なし。フィリピンでは、挨拶は毎朝交わすし、ご飯は一緒に食べる。家族同士で尊敬し合っていた。2週間しかいなかったのに、自分を家族として受け入れてくれた。★母や目上の人を敬う。★1つの空間で過ごす→コミュニケーションが多い。★家族を大事に思い、口を利かなかった父親と話すようになり、挨拶を自分からするようになった。

2. 日本と比べ、フィリピンでの人々のかかわり方をどのように受け止めますか。

★名前をよく呼ぶし、名前を大切にしている、それがフィリピン人の繋がりを、結びつきの濃さを表しているように思った。★日本では会話の中に、そんなに名前を呼んだりしない。★メイドがいた家でメイドを下に見ず、平等に扱っている。人に優劣をつけない。★情報が速い。★男女平等。むしろ女子のほうが強い? ★人見知りしない。★常に笑顔で受け入れてくれる。フレンドリ-

★積極性がある。(誰とでも)繋がりを常に大切にしている
★感情表現が豊で素直な気持ちを言葉にできる。

3. 「あなたの考える・幸せ」を簡単に述べてください。

ヒント：グローバル競争社会の傾向で、先進国は、物質的な豊かさを享受し、貧富の格差が年々広がっています。一方で、人間関係が、希薄で無関心、効率主義で、無駄な時間を使いたくない等、知らず知らずのうちに自分中心の生き方をしている傾向が見られます。資本主義の経済システムの渦に否応なく身を置いて生きていることで、忙しく過ごしています。でもそれを自覚したり、気づいている人もいます。ちょっと時間を止めて、考えてみる。自分が目指していることが、果たして、自分を本当に幸せにしてくれるものか、もしそうでなければ、軌道修正をして行く勇気を持つことが大切だと思いますが。また直接目に触れなくても、周りの人々、遠くの人、そして世界に無関心でなく、思いをはせることは、人として、自分が豊かになれることでしょ。――

★家族と過ごす時間 人と信頼関係を持っていることが幸せ
★心に余裕があることが幸せ。★自分のことを想ってくれる人がいて、自分でもその人のことを想える人がいることが幸せ。★たとえ物質的な豊かさは最低限でOK 心が豊かであれば幸せ。★心を豊かにするためには人のことを想って行動したり、思いやれる気持ちが大切だと思った。★貧富の差では決まらない、幸せの一番要素は他人との人間関係。Ex)恋人、友人誰かを思い、誰かが思ってくれること。★お金があまりなくても、誰かとの会話を楽しんだり、一緒に笑っているだけでも幸せ★帰りた場所があること。★フィリピンにいた時間、出会った人、行った場所、全てが幸せだったからこそ、別れがあんなにも辛かったし、帰国してから、またもう一度あのフィリピンに帰りた心から思えた★最低限の物質的豊かさの上に成り立つものである、とは思いますが、豊かな人間関係が何よりも大切であると感じた。

4. この活動に参加して、あなたが得たものは何ですか。

★得たものは一杯あると思う。でも、まだ得たものの全部を言葉にできない。挙げるなら、前よりも周りの物や情報に興味を持とうと思い始めたこと★英語を勉強としてではなく コミュニケーションのツールとして捉えるようになったこと★貧富の差について考えるようになったこと。★心の温かさを得た。★フィリピンに帰ってまず「家族に会いたい!」と強く思った。★家族や友人など人との心の繋がり、温かさをフィリピンで触れることができた。★自分がいろんな人に想われて生きている事を実感した。★形ではあらわせないもののお金で買えないもの、自分が必要とされる喜び、他人に優しくする心★積極性Don't be shy" ★帰りたと思う家がふえた。

5. 発展途上国フィリピンで異文化や習慣の違いを体験した後で、日本を外から見て、素晴らしいと気づいたこと、今後どんな国になって欲しいですか

★人と人の繋がりをもっと大切に、フィリピンを見習うべき

だとも思った。★今後、日本は効率や合理性だけを追い求めるのではなく、1人1人が幸せになれるような国になっていくべきだ★日本はみんなルールを守り時間通りに物事を動かし、イヤイヤながらもキチンと働く。その中で、人の中にある優しさ、温かさを失わずにいてほしいと思われた。★日本は時間を守る、計画性がある、きっちりしていることで、ここまで発展できたのだと思った。★安全、ルールを守る、便利、きれい、自分で何でもできること。様々なことが発達している。その分心が貧しい面がある。



2016年2月ボランティア活動の後、学生が作った文集とDVD

★帰国反省会に右の先輩3人も応援に参加



いづれも学校建設に参加した後、学生の団体 {RASA} を育成。後継者の育成に、大きな貢献をしてくれました。

★3月28日～4月1日サウスビル第一小学校訪問。
新学期からの給食準備のために現地を訪問。

経緯

手を貸す運動Ⅱから支援を受け、当校で昨年50名の支援をすることが出来ました。その実績成果に対し州から表彰を受けたことや、要支援の対象児童が1,500名あることを鑑み、手を貸す運動Ⅱから2倍の100名の児童を支援しようと、ありがたい申し出をいただきました。校長から小学校を卒業できるか危ぶまれる、5、6年生50人ずつに実施してほしいとの希望があり、既に各対象児童の家庭事情調査も詳細に行われていて、これについて、次ページで報告します。この地域は極貧でここは、ラグナ州で最大の小学校。欠食児が大変多く、欠席や、就学率を改善するために低学年児童への給食や、学校での物品販売での収益を財源にして、パンだけの朝食供与を既に開始していたことを知りました。PTAの役員の母親が、ボランティアで、食事の準備を行っているそうです。



ラグナ州カブヤオ市ママティッド 来年建設候補地検証



2016年度の6年生の給食



2016年度給食現場担当者

：手を貸す運動Ⅱから昨年の約2倍の贈与受けますが、給食にかかる人件費は2倍にならず、少しの増額しか提示されなかったため、その余剰分を、素材分に回して、少しでも子供たちの体位向上につなげたい。

2つのスーパーマーケットで調査したら、1食5パティ分で、粉ミルクを使って、毎食コップ1杯のミルクをプラスできるとわかり、1食40ペソ(¥100)予算で実施依頼してきました。牛乳は全て輸入、暑くて乳牛が育ちません。日本より高く日常的に牛乳を飲む習慣はありません。

29日は学校では学期末で授業が終わっていましたが6年生は卒業に当たり、昼食後教会に移動して、司祭から講義を受けていました。これは3日間あるそうです。



6年生の卒業講義

★3月17日中日新聞 詳細別紙

★4月15日、国際センターから取材を受ける。機関紙掲載

★4月3日毎日新聞 詳細別紙

★4月11日例会

★5月1日カトリック新聞掲載 詳細別紙

★5月9日例会

★5月13日名古屋市歯科医師会から代表者がフィリピンでのボランティア活動を進めるために、事務所に相談に来られる。

★5月21日RASA平成27年度総会

山田三朗監事 転居のため辞退 後任に花井 忠男氏

杉山 玲子、堀 伶奈 理事退任

★5月29日フィリピン・フェスティバル 国際センター

2016年のボランティア3大学から代表が活動発表

★6月4日海外ボランティア合同説明会 JAICA中部

★6月6日例会

6月10日26日study tour 説明会

★6月20日～23日 フィリピン訪問

給食study tour のための調査件と来年2017建設地訪問



フィリピンフェスティバル発表

2月の学校建設活動と、ホームステイ等の体験を英語で発表

平成27年度「特定非営利活動に係る活動計算書」
平成27年4月1日～平成28年3月31日まで

単位:円

科 目	前期決算	当期決算	備 考
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入金収入	270,000	290,000	会員の年会費
1) 正会員会費収入	270,000	290,000	
2 事業収入	8,707,090	10,120,000	学校建設ボランティア
1) ボランティア派遣事業	8,707,090	10,120,000	
3 補助金等収入	100,000	1,516,604	自立支援NPO
1) 受取助成金	100,000	1,500,000	
2) 受取補助金		16,604	
4 寄付金収入	2,786,396	3,650,547	
1) 寄付金収入	2,786,396	2,371,223	
2) ブロック支援寄付		279,324	
3) 鉄筋支援寄付		1,000,000	
5 雑収入	152,190	239,186	
1) 受取利息	1,577	1,147	銀行利息
2) 雑収入	150,613	238,039	
経常収入合計	12,015,676	15,816,337	
II 経常支出の部			
1 事業費	13,668,179	11,875,740	
1) 学校建設事業	10,338,551	10,561,341	
2) 奨学金支給事業	1,206,214		
3) 栄養障害児救済事業	2,123,414	1,314,399	
2 管理費	1,649,453	1,716,383	
1) 会議費	145,228	194,496	会議用飲食等
2) 旅費交通費	874,554	666,929	航空運賃等
3) 通信運搬費	74,832	139,109	郵送料等
4) 消耗什器備品費	65,058	59,480	
5) 消耗品費	154,237	236,600	事務用消耗品等
6) 賃借料	209,420	307,450	駐車料他
7) 諸会費	0	6,000	
8) 租税公課	4,700	400	収入印紙等
9) 雑費	121,424	105,919	振込手数料
10) 災害寄付費	0		
経常支出合計	15,317,632	13,592,123	
経常収支差額	△3,301,956	2,224,214	
III 経常外収益			
経常外収益計	0		
IV 経常外費用			
1) 過年度損益修正損	179,214		
経常外費用計	179,214		
当期収支差額	△3,481,170	2,224,214	
前期繰越額	8,314,480	4,833,310	
次期繰越収支差額	4,833,310	7,057,524	

コメント

今期は手を貸す運動2様より栄養障害児救済事業に150万円の助成金を頂き、50名の栄養不良児童を救済できました。また一般寄付の他に今期は学校建設用にブロック支援、鉄筋支援を頂き、財務内容が前期に比べかなり改善しました。学校建設事業に関連する現地下見旅費、ボランティア説明会、帰国反省会等の諸費用は管理費に含まれている。

校長先生から提供された 100人の給食選定対象児童のデータを分析
貧しさの実態がわかりました

peso	換算 円	6年生 人	5年生 人
13000	32500		1
100000	25000	5	
9000	22500	6	2
8000	20000	3	1
7000	17500	8	12
6500	16250		1
6000	15000	14	16
5500	13750	1	13
5000	12500	9	
4000	1000	3	1
不明		* ② 1	* ① 3
合計		50	50

- * ① 5年生で収入が不明の3家族の内
2家族は父親が所在不明で
母親と子供5人が生活
1家族は父親が無職で、一家7人の生活
- * ② 6年生で父親は無職子ども6人8人家族
日本との比較
50代ですが、生活保護費は135,000円

小学校の同じ学年で、年齢の違う児童が沢山いる。
その年齢差について

6年生 3 歳
5年生 5 歳

1家庭平均子供の人数
6年生 4.86 人
5年生 4.92 人

生活費から分かる貧しさの実態

月収 6000Pesoが最多の収入帯だが、家族数6.86人
1日当たり200Peso（500円）で生活；米1kg100円
2.1 k g で210円、更に必須の飲料水を買うにもお金
がかかる。物価は年々上昇。食べることにすら、みたさ
れない生活である。
だから食事をせずに登校たり、家でも満足な食事が
できない実態が伺える。
貸し借り文化、つけ買いが浸透している。
収入の多い家庭について
母親が海外に出稼ぎに行って、家族に生活資金の
送金をしているからで、母親不在なので、親せき
一族が家庭を支える。

海外で働く労働者は、年間1000万人を超え、
外貨獲得で、フィリピン経済に大きな寄与している
が
が働きに出ている場合、
父親の子どもの教育面で、問題が出て、特に都会
では社会問題も多く出ている。
仕事が経常的に、あるわけではなく、収入は決して
安定していない。左記の表が示すように安定的、
経常的な仕事ではなく、収入はとても不安定である。

職業	換算月収 peso	円 換算	6年 人	5年 人
無職	不明 4000	10000	3	4
露天商	5000～8000	12500～20000	5	2
道路清掃	5000～7000	12500～17500	2	0
仕立屋	6000	15000	1	0
建設労務者	6000	15000	4	3
職人	6000	15000	2	0
トラック助手	5000～6000	12500～15000	5	7
トライシクル 運転手	6000～9000	15000～22500	14	23
農夫(雇用)	5000～7000	12500～17500	2	3
工場労働者	10000	25000	5	2
技師	注 13000	32500	0	1
公共作業員	4000	10000	2	0
N/A	7000	17500	1	0
大工	7000～9000	17500～22500	3	2
機械整備	6000	15000	1	1
床屋	6000	15000	0	1
廃品回収	5000	12500	0	1
合計			50	50

今年も新聞各社が、集中的にRASAの活動を取り上げてくれました

1. 中日新聞 3月17日朝刊

「学生ら フィリピンで学校づくり」
県内42人NPO事業のボランティア

2. 毎日新聞 4月3日朝刊

「学生ボランティア心の成長」
学校を建設する意義、活動の経緯

3. カトリック新聞 5月1日

「フィリピンで校舎建設」
学生募り毎年ボランティア

発展途上国で、多くの人々が なぜ貧困から抜け出せないのか ！？

今春、中部圏の先生方が、JAICAが企画したアジアの開発途上国での、現地の教育実習ツアー（約1か月）に参加されて、その帰国報告会がありました。

目的は、日本の子供たちに、その体験を通して、日本では想像すらつかない厳しい現実や、純粋な子ども達の姿を伝えるためです。約30名の先生が各ブースで資料展示や講話、質疑応答が行われました。そこにはまさに**負のサイクルの共通性**—誰もが人として生まれながらに持っている、潜在能力を導き出す「教育を受けなかったこと」がありました。絵や写真のスペースがありませんが、想像の翼を広げて、豊かな日本から貧しい人々に思いをはせてみましょう。

幼児期：学校に行けない → 読み書き、計算 ができない → 働くための技術や能力が身につかない

成人期

独立：定期的に仕事がある安定した収入のある仕事に就けない。



収入がない → 食糧が買えない → 成長に必要な、生きるに必要な栄養が取れない。



病気になりやすい → 仕事ができない（働けない） → 子どもに親の手伝いをさせたり、働かせる



子 孫：学校に行けない。



こうして親が歩んだ道を、子どもも繰り返すことになる。

STUDY TOUR

NPO 法人 RASA-Japan

2016 夏休みの海外ボランティア募集—フィリピン—

貧困に苦しむ小学生への給食支援活動







◎貧困マニラの近郊の貧困地域の子供たちに、給食を作る仕事です。
 ◎作業は、50人ずつ給食が2度に分けられ実施され、2つのグループに分かれ活動します。
 ◎食材の出し、食卓づくり、給食、後片付け等を分担しながら、実施します。
 ◎現地の食材を使い、予算内で、栄養不足、栄養障害の子供たちの給食支援活動です。食料不足が深刻で、家庭で、授業に集中できない、給食が食べられない子供のために実施されるものです。成長期に必要な量、栄養価、食料バランスを考えたメニューで計画されています。市場見学、実習して、食育の授業まで、できたら素晴らしいと考えています。今年6月から、ご支援者の協力のあふれて、登録100名の児童に給食を行います。
 ◎午後から、学生ボランティアが、授業をする時間を交わす中です。日本文化紹介—折り紙製作—日本などの言葉遊び、など、子ども達との交流に力を入れています。
 ◎今回のボランティア活動で、現地の貧しさを知り、ホームステイで、家族の一員としてホストファミリーと過ごす中で、異文化に直接触れて、フィリピンの人達、子ども達との触れ合いなど、日本では決してできない貴重な体験ができます。

【募集期間】 6月1日～7月10日(先着順・定員になり次第締め切り)
参加費納入期限 7月25日(月)
【研修期間】 8月21日(日)～8月27日(土) 7日間 現地研修4日間、1日観光
【募集人員】 10人のボランティア(RASA-Japan スタッフ1名同行)
【研修費用】 120,000円 全ての費用(航空運賃他観光、交通費、宿泊費、食費含む)

研修日程

活動地：フィリピン・ラダナウ・カブサオ市 ニラギン サウスビル1小学校
 (マニラ空港から、バスで、約3時間)

日 数	内 容	宿 泊
8月21日(日)	セントレア(中部空港) PR437 9:30 発(2日前集合) マニラ空港 13:30 着—バス—サウスビル1小学校	ホストファミリーステイ ホストは学校の先生
8月22日(月)	給食研修 7:30～14:00 頃	同上
8月23日(火)	同上	同上
8月24日(水)	同上	同上
8月25日(木)	同上	同上
8月26日(金)	7:00 サウスビル—観光(タギガイタイ—昼食—市内観光 15:00 マニラのホテル着 荷物置き—ショッピング(マニラ) —ホテル—夕食懇話会タイム3時間(カマヤン)	ホテル泊
8月27日(土)	ホテル—マニラ空港 13:30 PR438 11:00 セントレア着 18:55 —20:00 解散	

事前説明会：6月10日(金) 6月16日(木) 開催 南山大学 ロゴスセンター
 お問い合わせ先
 NPO 法人 RASA-Japan 事務局
 〒 468-0014 名古屋市中区中津2-2-6 2F
 Tel&Fax: 052-803-1649
 Mobil: 080-4305-2627
 E-mail: info@rasa-japan.com
 URL: http://rasa-japan.com
 Facebook: https://www.facebook.com/RASA-Japan

研修 STUDY TOUR エアチケット発券に必須の要件事項

フリガナ	パスポート(旅券)	旅券番号
氏 名	発給日 (A) 誕生日から6ヶ月以上有効期限満期	
生年月日	名前の英字表示 (パスポート通り)	
電 話 No	E メールアドレス	
携 帯 No	参加費振込先	三井東京 UFJ 銀行 平井支店 (095) 普通 No 0037025 特定非営利活動法人 RASA-Japan
住 所 〒		

5ページ中段の学年内年齢差についての説明

同じ学年で、年齢差がある理由について質問したら
学校から次のような解答が来ました。

5年生で3年年齢差、6年で5年年齢差があるのは なぜ？

- ①親が子供を学校に入れるのが既定の6歳でなく、7, 8, 9歳でやっと就学に送り出す。
- ②欠席（病気、空腹）で欠席が多いと、該当年度の達成能力テストに落第する。
- ③諸事情によって途中で学校を止め、2、3年後に同じ学年で復学する。
- ④年上の兄弟が働いて、能力のある兄弟を先に学校に行かせ、あとから就学するか、もう就学しない。

ご寄付のお願い

フィリピンは経済発展しているように報じられています。確かにそうだと思います。しかし、相変わらず貧富の格差の広がりや進み、生活できる仕事に就けていない人たちは増加の一途をたどっております。RASAが理念としているフィリピンの子供たちの教育環境を整備し、貧しさの連鎖の原因をなくす貢献を継続しなければなりません。学校や教室は大幅に不足しており教室の増設要望はまだまだ続き、資金が必要です。

もう一つの事業は給食支給事業です。RASAは予算の関係から現在100名の児童に給食をしております。多くの学校からの要請があります。フィリピンの子供たちのために皆様方のお力を貸していただきますようどうぞよろしくお願いいたします。

RASAの活動は、皆様からの会費と寄付金によって支えられております。活動の継続・発展のためには、活動の趣旨に賛同して下さる方からの継続的な支援が必要になります。
ぜひ会員になっていただくかご寄付をしていただく形で、ご協力よろしくお願いいたします。

【振込口座】 ゆうちょ銀行 00890-4-31185

【振込名義】 特定非営利活動法人RASA-Japan
(トクヒ) ラサージャパン

その他金融機関からの場合

【銀行名】 ゆうちょ銀行

【支店名】 ○八九 (ゼロハチキュウ)

【口座種別】 普通

【口座番号】 31185

【受取人名】 特定非営利活動法人RASA-Japan
(トクヒ) ラサージャパン

編集後記

第7期決算総会も無事に終了しました。

夏休みから春休みに変更した学校建設活動の一連の行事もすべて完了しました。

マニラ空港の待合室では建設作業で少しばかり日焼けした顔は、一人残らず満足と納得で輝いていたのを思い出します。帰国から4か月。この間に、活動反省会、体験発表会が2回、マスコミの取材、写真集 (DVD) の作成並びに活動体験文集の配布でやっと区切りがつかしました。学生諸君に学校、学部、学年の違いの壁はなく帰国後の活動は兄弟姉妹が集まっているように錯覚する光景でした。

異文化を共に体験した仲間たちが、切っても切れない固い絆で結ばれた「新しい友」を得た満足した顔でした。



特定非営利活動法人

RASA-Japan

理事長

藤井 典夫

住所

〒468-0014

愛知県名古屋市中平区中平二丁目2627番地

TEL/FAX

052-803-16498

URL

<http://rasa-japan.com/>

E-Mail

info@rasa-japan.com